

今年遠征を迎える伝統のレース

第60回成人記念ロードレース

新春の都城路を駆け抜ける成人記念ロードレースが1月16日都城市陸上競技場を発着とするコースで開催されました。今年で60回を数える伝統の大会に、今回は小学3年生から71歳までの551人の市民ランナーが参加。距離別、年齢別で健脚を競い合う選手らに沿道から温かい声援が送られていました。5キロの部に息子の大樹君と参加した田中勉さん（上長飯町）は「ペースが速く、きつかったですが、親子をろって大会に出られたので良かったです」と笑顔を見せていました。



いろいろな国をまわーると

ワールドフェスタinみやこのじょう

海外の文化に触れることができるワールドフェスタが1月22日、ウエルネス交流プラザで行われました。県内にいる外国語指導助手や国際交流員などが出身地12カ国を紹介。モンゴルのブースでは昔話を紙芝居にして披露されたほか、モロッコ王国のブースではヘナという草を染料としたボディペイントが体験でき、訪れた家族連れらを楽しませていました。吉川匠くん（大王小4年）は「パズルでイギリスの地図を覚えたので、大人になったら行ってみたい」と笑顔で答えていました。



都城の歴史的資料を守る

都城島津邸防火訓練

1月26日の文化財防火デーに合わせて、都城島津邸で防火訓練が行われました。多くの建造物が市指定文化財である都城島津邸。また、国重要文化財である紺糸威紫白肩裾胴丸大袖付などが所蔵されていることから、大事な文化財を火災から守るために実施されました。訓練では、職員らによる初期消火や来場者の避難誘導が行われたほか、消防署からはしご車なども参加し、放水訓練が行われました。訓練にあたった中島館長は「避難経路や連絡体制の確認がとれて良かった」と話していました。



難コースに悪戦苦闘

都城市パークゴルフ交流大会

競技を楽しみながら、地域を越えて交流や互いの親睦を深めようと、都城市パークゴルフ交流大会が1月27日、高崎パークゴルフ場で開催されました。今回は、県内外から愛好家112人が参加。参加者らは、起伏のある難しいコースに挑みながら自慢の腕を披露していました。健康増進のため8年前に退職仲間と始めた、稲木弘さん（志布志市）は「今は週4回ほど練習しています。体力が低下しないように楽しみながらプレーしています」と息を弾ませながら話していました。





ステキな趣味の輪が広がる

キラリ☆生涯学習フェスティバル

生涯学習講座のボランティア指導者とその受講者らによる発表会「キラリ☆生涯学習フェスティバル」が1月29日・30日、ウエルネス交流プラザで開催されました。日本舞踊やハーモニカの演奏など、56組のグループが日ごろの練習の成果を発表したほか、ロビーでは作品展も行われ、手芸品や工芸品などが展示されました。出演した金丸良子さん（菖蒲原町）は「友達も増え、毎回の練習が楽しみです。趣味の幅が広がり、これからも楽しみなが頑張りたいですね」と笑顔で話していました。



一流選手も基本が大切

村田兆治さんふれあい野球教室

子どもたちにプロの技に触れてもらうふれあい野球教室が1月29日、元ロッテオリオンズの村田兆治さんを招いて姫城地区体育館で行われました。市内で活動する少年野球5チームの100人が参加。村田さんが「一つ一つの基本を忘れずに努力をすることが大事」と話し、礼儀やけがを少なくするためのストレッチの仕方を指導しました。また、現役時代をほうふつとさせる投球ホームであるまさかり投法を披露すると子どもたちや保護者から大きな歓声が上がっていました。



十五の夢、そして誓い

立志のつどい

次世代を担う若者としての自覚を持つてもらおうと立志の集い、2月3日から25日にかけて市内の各中学校で行われました。2月17日に開かれた庄内中学校の立志の集いには、2年生89人が出席。式では、立志に当たってそれぞれが目標がスクリーンに映し出される中、その目標を掲げた理由を保護者に向かって生徒全員が発表しました。また、発表後には宮崎シヤイニングサンズ代表の鎌田俊作さんの講演が行われ、立志を迎えた子供たちにチャレンジすることの大切さを伝えました。



明治時代へタイムスリップ

商家のひなまつり

商家のひなまつりが2月19日、旧後藤家商家交流資料館で始まりました。3月31日までの期間、階段や縁側などに70セット、約800体の人形を展示。後藤家に伝わる古い人形や明治時代の着物、町内から寄せられたひな飾りなどが建物内を華やかに彩り、訪れた家族連れらを楽しませていました。夏休みを利用して友人宅に遊びにきていた陳・サマンサさん（オーストラリア）は「オーストラリアでは女の子を祝う伝統的な行事がないのでうらやましいです」と笑顔で話していました。





産

婦人科と連携し、女性の出産の介助をはじめ、産後のケアや助言などを行う助産師。今までに約3,000人の分べんに立ち会い、出産後も育児の相談にも応じるなど親子の相談役として活動しているのが上田のぶ子さん（南鷹尾町・61歳）です。

まざまな相談をする場がなかった」という理由から平成5年の当時には珍しかった母乳外来「おっぱい相談」を開設。また、平成10年には母親同士が日ごろの育児に対する悩みを話せる乳児サークル「母と子のつどい」を始めました。こうした活動が口コミで広がり現在では、ほかの産婦人科で出産した人でも参加できることから市内はもろろん霧島市や宮崎市などから多い時には30組を超える親子

が乳児サークルに参加しています。30年以上も助産師として活動をしてきた上田さんですが、時代とともに開業助産師の数も減少し市内で一軒しかなかった時期にも直面。そうした時期にも地域に根ざした助産師活動に信念を持って続けた結果、平成4年に「母子保健奨励賞」、平成22年には「医療功労賞」を受賞し、それを励みとしてますます精進されています。

現在でも、妊娠や出産、育児に対する不安や悩みなどの相談を受けて、きめ細かなアドバイスをされています。また母親との信頼関係を探るため、全国各地で行われるカウンセリングや東洋医学などのさまざまな研修を受講し努力を惜しみません。

「お母さんたちに喜んでもらえる出産、楽しい育児のサポート役でありたい」と話していました。

出産から育児までのサポート役

上田助産院 院長

上田 かんだ のぶ子さん



都城讃歌

であ
出逢ってくれたすべての人と
愛する故郷に最大限の恩返しをしたい

戸越 正路さん



とごえ まさみ
戸越 正路

◎プロフィール

昭和59年6月28日生まれ。山田町出身
国立都城工業高等専門学校卒業
関東から宮崎に元気を届けるプロジェクト!!
「みやざき虹かけプロジェクト」代表

「やっぱもう一回関東戻って修行してくる！」

5年勤めた会社を辞め、母と飲食店を開く目的で帰省した僕は、再び上京する決断をしました。母と自分にとっての理想のお店を開くためには、まだまだ力不足だと感じたからです。

口蹄疫問題が深刻化したのは関東に来てすぐのころでした。今はやるべきことがある。自分に何度も言い聞かせながらも、故郷が危機的状況なのに何もできない自分に歯がゆさを感じていました。それから約2カ月に渡る苦悩の末、『みやざき虹かけプロジェクト』を発足し、関東から宮崎へ、少しでも元気を届けたいとの想いで活動してきま

した。昨年のプロジェクトは成功に終わり、今年はさらに面白い活動につなげていけそうです。

鳥インフルエンザに新燃岳の噴火、災難続きで心が折れそうな方々が地元にはたくさんいらっしゃると思います。でも、遠く離れたこの地にも故郷の無事を祈る沢山の仲間がいることだけは忘れないで欲しいです。

「偉れなれね」5年前、祖父が亡くなる前に僕に言い残した言葉です。じいちゃんが望むほど立派な人間にはなれないかもしれないけど、自分の持てるすべての力を使って、今まで出逢ってくれた人たちと愛する故郷へ、最大限の恩返しをするという形でその願いに応えたいです。

学校へ行こう

沖水小学校

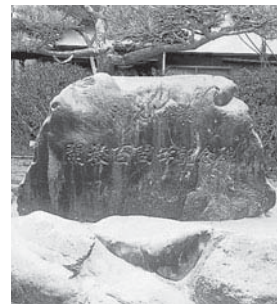
太郎坊町1979番地 電話 38-1330



◎学校のシンボル 「開校百周年記念碑」

- ◎大きな夢を持って勉強する子ども
- ◎決まりを守り、優しい心
- ◎自ら進んで行動する子どもが合言葉です

この記念碑は私たちの伝統の証しです



「夢いっぱい笑顔いっぱい」 感動いっぱい」の 沖水小学校

6年 右松 愛梨さん

6年 鳥井元如葉さん

私たちの大好きな沖水小学校は、全校児童849人、市内一のマンモス校で、元気がよくとても明るい学校です。

本校では、去年よりたくさんの本を読もうと読書の輪を広げています。また、通学路で危険と思われる場所には、見守り隊の人が立ち、私たちの安全を見守ってくれています。このように、地域と学校が結び付き、私

たちは毎日安心して学校生活を送ることが出来ます。見守り隊の人と交わす元気のいいあいさつも、沖水小学校のすてきなところですよ。

さらに、沖水小学校では、清掃のボランティアを行っていきます。特に、6年生は、毎朝交代で校庭などをきれいにしています。毎朝学校に来る全校児童を最初に迎えてくれる校門などがきれいだ、朝からとても心がすっきりして気持ちいいです。

全校児童849人、一人一人が「夢いっぱい、笑顔いっぱい、感動いっぱい」を合言葉に学校生活を楽しんでいます。皆さん、ぜひ沖水小に来てください。